



TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2014の幕開け！ Summer Lecture 2014 for Nanotechnology/Nanoscience

2014年7月22日から8月5日の間の10日間、第3回目となるSummer Lectureはつくばナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム（オナーズプログラム）主催によって筑波大学総合研究棟Bを会場に開講し、TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2014の幕が明けました。



オナーズプログラム運営委員
佐野 伸行教授
筑波大学数理工学系

ナノエレ関連分野の第一線で活躍されている5名の先生方をお招きして、今年で3回目となるSummer Lectureをほぼ2週間にわたって開講しました。

Summer Lectureは、筑波大学で実施しているつくばナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム（オナーズプログラム）におけるコアプログラムの一つであり、本講義の単位修得および聴講がオナーズプログラム在籍学生の修了要件になっています。

各科目は10回の講義と宿題、期末試験からなり、欧米著名大学で行われている大学院講義に準じて英語で行われました。この集中講義は、規模やその趣旨において通常の集中講義とは大きく異なることから、プログラムの中間審査においても教育効果の高いユニークな集中講義として高く評価されています。

また、海外講師による厳正な成績評価のうえ、正規履修の合格者は筑波大学大学院における単位（各科目1単位）として認定されます。今年度は、単位取得を目的とした正規履修生に加えて聴講目的のみの学部・大学院生にも講義を開放し、また、リアルタイム型遠隔講義として大阪大学にも講義を同時配信



することで、他大学まで含めた多くの学生に世界標準の大学院講義を実体験してもらいました。筑波大学をはじめ大阪大学、早稲田大学、東京理科大学等の125名もの学生がSummer Lectureに参加しました。

また、各科目には若手教員をTA(Teaching Assistant)として配置し、オフィスアワーを毎日設定することで、学生の理解度を深めるための便宜も図りました。初日に講師と学生の親睦を深めるための懇親会を開催したことで、オフィスアワーや講義直後に講師や若手教員に積極的に質問する学生の姿がこれまでに比べて多く見られました。また、昼休みのコーヒープレイクでは、講師と本学教員が和やかに歓談する光景も頻繁に見受けられました。

今年度をもってオナーズプログラムが終了することから、Summer Lectureも今年が最後の開催となりました。多忙にも関わらず中間審査等でご協力頂いた先生方をはじめとして、学内外の多くの皆様方これまで頂いたご支援に深く感謝申し上げます。

期間／会場	2014年7月22日(火)～8月5日(火) ※7月25日(金)を除く平日10日間
	筑波大学 総合研究棟B0110公開講義室
主催	筑波大学つくばナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム
構成	5講義、各10コマ
参加者数	127名（大学院生123名、学部生2名、社会人2名） ※5講義合計

TIA連携大学院WG News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <http://tia-edu.jp>

Summer Lecture 2014 for Nanotechnology/Nanoscience

日程：2014年7月22日（火）～8月5日（火）※7月25日（金）を除く平日10日間
会場：筑波大学総合研究棟B0110公開講義室



Electron Transport Theory —電子輸送理論—
Prof. Calro Jacoboni (Univ. Modena、イタリア)



Ultrafast Optics —超高速光学—
Prof. D. M. Mittleman (Rice Univ.、アメリカ)



Energy in Nanoelectronics
—ナノエレクトロニクスでの熱輸送—
Prof. Eric Pop (Stanford Univ.、アメリカ)



Interfacial Properties in Nanobio-technological Systems
—ナノバイオ系の界面特性—
Prof. Magnus Bergkvist
(SUNY-Albany、アメリカ)



NanoElectronics: Quantum, Spin, Organic
—ナノエレクトロニクス—
Prof. W.G.van der Wiel (Univ. Twente、オランダ)
